

学部 / 看護専門領域 / 看護の実践

科目コード：130044

## 統合実習 Integrative Practicum

担当教員	看護教員全員				
実務経験	複数の教員が担当しており、全員に病院等の勤務経験がある。				
開講年次	4年次前期	単位数	2	授業形態	実習
必修・選択	必修	時間数	90		
Keywords	継続看護、ケアの質保証、チーム医療、リーダーシップ、メンバーシップ、専門職間連携、安全管理				
学習目的・目標	<p>【学修目的】 病院における療養生活と継続看護を支える実際、またその後の地域における人々の健康生活を支援する保健・医療・福祉体制の実際とその連携を理解し、チーム医療の中で看護師としてのリーダーシップ、メンバーシップを実践する能力を養う。</p> <p>【学修目標】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 患者が地域（在宅）一外来一病棟の場で、療養を継続するための医療・看護組織のシステムと地域および専門職間の連携の実際を知り、チーム医療における看護の役割と機能を理解する。<ol style="list-style-type: none"><li>1) 一貫性・継続性ある看護ケアの提供システムを理解する。<ol style="list-style-type: none"><li>①病棟の看護ケア提供システム</li><li>②病棟一外来一在宅の継続システム（病棟一外来一元化システムや入退院支援センター等含む）</li></ol></li><li>2) 看護チームの一員としてのリーダーシップ、メンバーシップの役割を理解する。</li><li>3) 看護業務遂行におけるタイムマネジメントと役割分担、優先順位の決定を理解する。</li><li>4) 看護チームの一員として、メンバーとともにケアを実施する。</li><li>5) 退院支援の医療チームカンファレンスに参加し、看護チームおよび看護師の役割・機能を理解する。</li><li>6) 外来患者の療養生活を理解し、外来看護のあり方を考える。</li><li>7) 地域連携および専門職間連携の実際を理解し、外来看護の役割・機能を理解する。</li></ol></li><li>2. 安全・安楽な医療・療養環境を保証するためのシステム・整備および看護師の調整役割を理解する。<ol style="list-style-type: none"><li>1) 薬物療法に関する指示受けと確実な実行を理解する。</li><li>2) 医療用消耗品・備品の管理システムを理解する。</li><li>3) 入院患者の安全・安楽な療養環境の保持を理解する。</li></ol></li></ol>				
授業計画・内容					
回	内容				
	<p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 外来実習<ol style="list-style-type: none"><li>1) 一貫性・継続性ある看護ケアの提供システム</li></ol></li><li>①病棟一外来一在宅の継続システム（入退院支援センターなど）<ol style="list-style-type: none"><li>2) 退院後、地域で生活する人の在宅での療養生活と必要な看護支援</li><li>3) 継続看護における看護連携の必要性</li><li>4) 看護職以外の専門職が担う役割や専門性を理解し、チーム医療を発揮するために看護職と他職種との協働</li><li>5) 地域社会で生活する人々の保健・医療・福祉のニーズを充足するための地域連携の実際</li></ol></li><li>2. 病棟実習<ol style="list-style-type: none"><li>1) 一貫性・継続性ある看護ケアの提供システム</li></ol></li><li>①病棟の看護ケア提供システム ②病棟一外来一在宅の継続システム<ol style="list-style-type: none"><li>2) 看護チームの一員としてのリーダーシップ、メンバーシップの役割</li><li>3) 看護業務遂行におけるタイムマネジメントと役割分担、優先順位の決定</li><li>4) 看護チームの一員としての看護ケアの実施</li><li>5) 退院支援のチームカンファレンスでの看護チームおよび看護師の役割・機能</li><li>6) 薬物療法に関する指示受けと確実な実行</li><li>7) 医療用消耗品・備品の管理システム</li><li>8) 入院患者の安全・安楽な療養環境の保持</li></ol></li></ol> <p>【実習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 実習課題の明確化および実習計画立案</li><li>2. 各実習場所との調整</li><li>3. 外来実習<ol style="list-style-type: none"><li>1) 外来看護師と共に行動し、外来看護（看護連携、各部門（専門職間連携））を体験する。</li><li>2) 通院加療中の患者1～2名、可能ならば、外来から入院となる患者1名を受け持つ。</li><li>3) 受け持った患者の情報や患者との関わりを通して、通院しながら在宅で療養する患者の理解を深め、必要な看護援助をアセスメントする。また、継続看護を行う上での課題を明らかにする。</li><li>4) 専門職間連携の実際を通して、チームの中での看護の役割を考える。</li></ol></li><li>4. 病棟実習<ol style="list-style-type: none"><li>1) 看護チームの一員となり、リーダーとメンバーとともに行動する。</li><li>2) 看護師長又は副師長に、実習内容について、説明を受けたり、観察、資料閲覧を行う。</li></ol></li><li>5. 実習まとめ<ol style="list-style-type: none"><li>1) 実習での学びを共有し、一人ひとりの理解を拡張・深化させるために、テーマ別の課題について、学びをまとめ、発表する。</li></ol></li></ol>				
教科書	系統看護学講座専門5 成人看護学総論（医学書院）、統合分野 看護管理 看護の統合と実践①（医学書院）				
参考図書等	在宅看護学 改訂第2版（南江堂）				
評価指標	実習目標の達成状況（70%）、看護専門職に必要な態度(30%)を実習内容及び実習記録やプレゼンテーション、最終課題レポートから評価する。				
関連科目	看護キャリア形成論、これまで学んだ全ての科目				
教員から学生へのメッセージ	これまで修得した知識・技術、経験から得た学びを思う存分発揮し、生活者である人々の健康問題に対応するために、どのような専門職と連携する必要があるのか、場所を問わず人々に必要な看護ケアを提供することを学修します。				